

# 法人50周年記念



秋の深まりとともに偕楽荘周辺の木々も色づき、紅葉が見頃を迎えています。偕楽荘がある多摩ニュータウンは、春は桜が秋には紅葉がとても綺麗です。ニュータウンが建設された昭和40年代から街路樹として桜や銀杏、もみじやメタセコイアなどが整備され、長い年月とともに大きく立派に成長しています。春や秋に多摩市にお越しになる機会があったら、そうした街路樹を見てまわるのも楽しいかもしれません。

さて、前号では偕楽荘の50周年についてお話させていただきましたが、施設が開設50周年を迎えた今年、母体である社会福祉法人楽友会も設立50周年の節目を迎えております。

社会福祉法人楽友会は1963年（昭和43年）2月15日に設立。以来、半世紀にわたり多摩市を拠点に高齢者福祉事業に取り組んできました。最初に開始した事業は当施設である軽費老人ホーム偕楽荘。その6年後、昭和49年には特別養護老人ホーム白楽荘を開設。この頃は多摩市連光寺に施設を構えていました。平成8年に連光寺の施設を多摩市山王下の現在地に移転し、併せて白楽荘在宅サービスセンターが開設され、デイサービスやホームヘルパーなどの在宅事業を開始しています。直近の出来事といえば、平成30年3月に八王子市堀之内に新たなデイサービス事業所を開設しました。

50年という大きな節目ということもあり、先月10月には法人設立50周年記念式典をサンリオピューロランドで開催しました。式典会場をサンリオピューロランドとしたのは、多摩市に拠点を置く法人として、なかなか良い選択肢だったように思います。当日はご来賓をはじめ大変多くの方にご来場いただき、改めて50年のつながりの広さと深さを感じました。本当に多くの方のご支援ご協力があってこそこの50年であったと身に染みて感じました。本当にありがとうございました。これからも、この地域で少しでも皆様のお役に立てるよう、時を経て大きく成長した多摩市の街路樹のように、当法人もさらに大きく枝葉を伸ばしていけたらと思っています。